芦生演習林の保存木，保存林（1）

—昭和61年度までに記録された保存木—

芦生演習林演研グループ

1．は じ め に

樹木の多くの種は，大きさやその寿命（樹齢）で他の生物種を圧倒するものの一つである。樹木は古くから人々の生活に必須のものとして利用されてきたが，材質の優良な樹種の大径木は建築材として重宝がられ，搬出の可能な地域のものは殆ど伐採され利用されたといっても過言ではない。さらに近年林道や搬出機械の発達により，今まで利用されなかった奥地の大径木も年々減少し巨大さに特徴のある樹木の姿をとどめるものが少なくなってきた。このような巨木や大径木の集団（林分），個体数の少ない樹種などを保存することは，樹木の種の特性や森林の発達の機構を解明するうえにも重要であり，適切な保護，保存を図ることが急務である。芦生演習林では，演習林設定直後から大径木やそれらの林分，あるいは珍しい樹形の樹木などの保存が計画され，昭和３年に保存木林台帳が作成されている。本資料は上記により既に記録されている保存木を再調査した結果と，その後さらに林内が詳しく踏査されることにより保存木指定が適当であると判断されたものについて調査した結果である。調査は芦生演習林の演習林研究（演研）の一課題として行ったものである。

調査と選考を行ったのは安藤　信，石川秀夫，大牧治夫，川那辺三郎，北川新太郎，木村庄治，田中壮一，中根勇雄，中野孝一，登尾久嗣，藤原守正，牧瀬明弘，丸山　宏，湯浅輝和で，取りまとめは川那辺三郎と安藤信が行った。昭和３年の保存木林台帳に記載されている保存木の位置などについて，現地で確認に協力いただいた演習林本部計画掛鬼石長作掛長に深謝する。

2．調 査 の 方 法

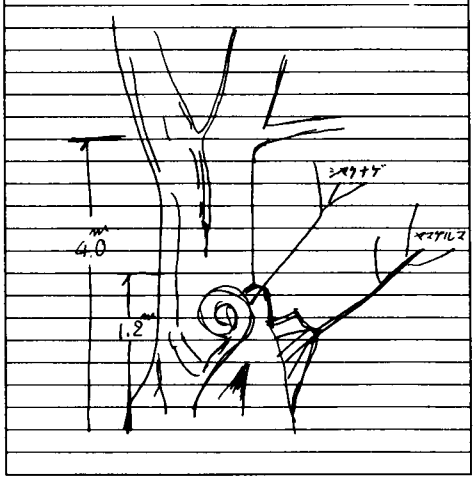
保存木や保存林の選考に関して昭和３年10月発行の演習林概要によれば，「保存木並ニ保存林ノ設定ニ関スル件（昭和三年四月三十日決定），一，演習林ニ於ケル自生又ハ培養ノ樹木又ハ林分ニシテ希有又ハ異常且学術研究ノ参考トナルベキモノハ之ヲ保存ス。（以下二～九は保存の手続きなどについて記されているがここでは省略する）」とあり，本資料により新たに保存を決定したものについては，特にその基準を設定していないが，上記の基準に準じて分布上重要なもの，個体数の少ないもの，大径のもの，樹高が高いもの，樹形が特異なものなどをもとにした。

調査は昭和３年度に作成された保存木林台帳に記されている調査方法および測定項目に準じ，下記の様式の調査野帳によって行った。

名称 ネジレスギ　　No. 10

種類	スギ（アシウスギ）
位置	11林班 ブナ保存林内 林道上
発見年月日	59. 11. 21
発見者	川野辺 宇藤 丸山, 牧野, 湯浅, 中根, 北川, 警尾
指定年月日	59. 11. 21
保存物ノ性状 樹勢	——
胸高直径	$D_{1.2}$ = 158.2cm　$D_{1.0}$ = 151.8cm
樹高	15.5m
枝下高	4.0m
樹冠直径	17.5m × 12.8m
樹態略説	右図参照
立地概況	
下層	アセビ, スギ伏条根樹, クロソヨゴ, アフシバ, イヌ
	イワウチワ ヤマツツジ, シノブカグマ
中層	ネジキ, シマウナゲ, ヒノキ, リョウブ
上層	ミズナラ スギ, ブナ
備考	
	ねじれの上の部分にシマウナゲとヤマグルマが自生する

調査者



調査野帳（例）

3．保　存　木

No.	樹種（名称）	測定年月（昭和年月）	位置（林班）	胸高直径（cm）	樹高（m）	樹冠（m×m）
1	ユクノキ	59.9	5	62.0	23.1	18.5×18.0
2	メグスリノキ(1)	59.9	5	37.2	21.5	7.8× 7.0
3	メグスリノキ(2)	59.9	5	66.0	21.2	9.0×11.6
4	ケヤキ	59.9	5	78.8	33.9	23.0×23.0
5	カツラ	59.9	15	314.0	37.0	34.5×28.1
6	カツラ（大桂）	59.9	16	320.0	37.5	31.5×24.5
7	ブナ	59.9	17	91.6	25.5	26.6×24.5
8	スギ(スギ精英樹)	59.9	20	79.2	38.0	5.7× 6.2
9	イイギリ	59.9	19	65.1	22.5	14.8×14.9
10	スギ(ネジレスギ)	59.11	11	158.2	15.5	17.5×12.8
11	ミズナラ	59.11	3，4の境	184.0	24.0	30.0×20.9
12	コウヤマキ	59.12	8	46.8	21.3	6.0× 5.2
13	カヤ	59.12	8	72.0	20.0	10.0×12.0
14	アスナロ	60.11	28，29の境	99.8	23.3	12.0×12.0
15	ヒノキ	61.7	13	胸高周囲 5.35m	19.0	14.5×14.5
16	スギ（根曲杉）	61.7	13	131.0	22.6	10.3×10.3
17	ヒノキ（大檜）	61.7	13	胸高周囲 7.30m	20.5	13.0×15.8

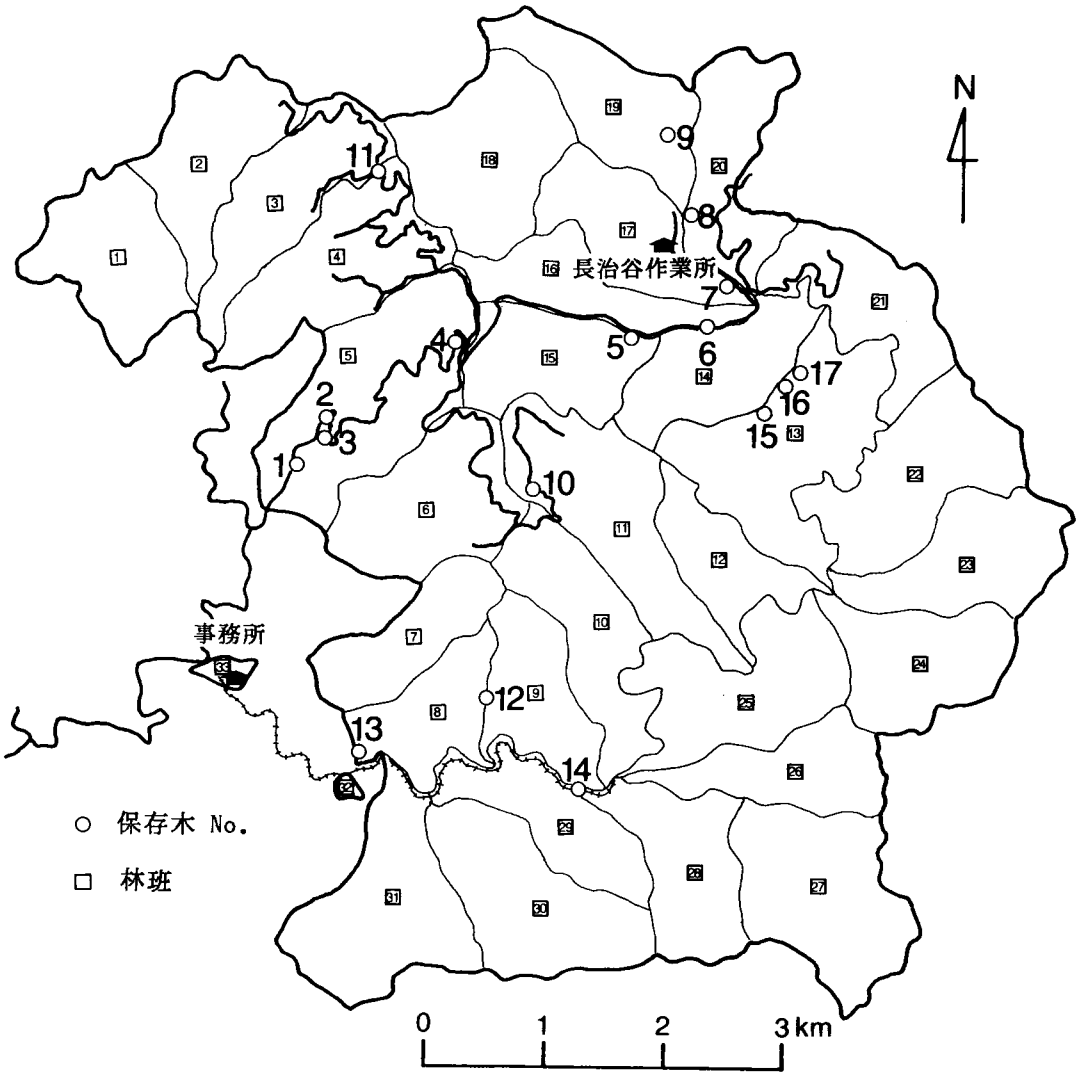
注・No. 6，No. 16，No. 17は昭和3年の「保存木林台帳」に記載されている保存木を再調査したもので，昭和3年6月の測定記録を略記すると

1（No. 6）大桂　目通周囲　8.35m　樹高　41m　樹冠直径　20m

5（No.16）根曲杉　目通周囲　2.36m　樹高　17m　樹冠直径　8m

7（No.17）大　檜　目通周囲　6.80m　樹高　18m　樹冠直径　12m

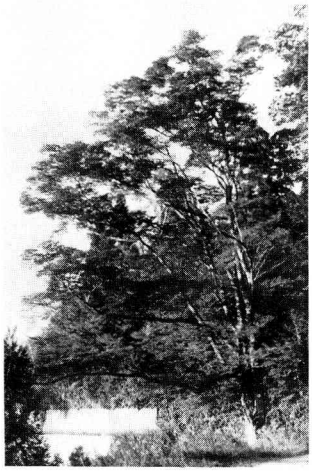
である。上記のほかに記載されている保存木は3．連理ノナラ，4．ブナノ大瘤，6．女夫杉であるが3，4は調査の結果枯死したものと判断され，6については未確認である。



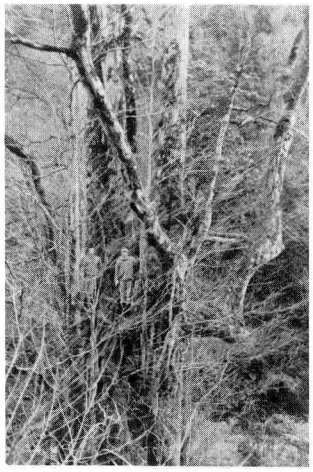
保存木の位置

4．お　わ　り　に

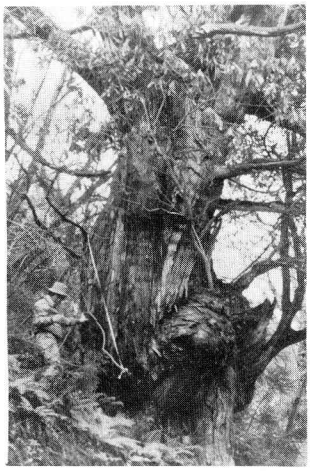
保存林については現在調査中であるが，これらの調査野帳は芦生演習林に保管されている。保存木や保存林は，まず現状を維持することを目標に，その周辺部は人手を加えないよう配慮する必要がある。しかしこれらの保存木や保存林は貴重なものや珍しいものとして保存するだけではなく，その生存の歴史や周囲の環境との関係など多方面の分野から調査研究が続けられるよう歩道の開設なども考慮する計画である。



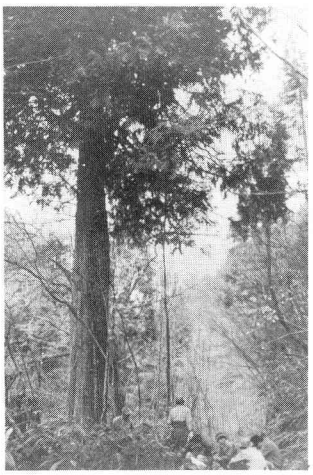
No. 4　ケヤキ５林班



No. 6　カツラ（大桂）16林班

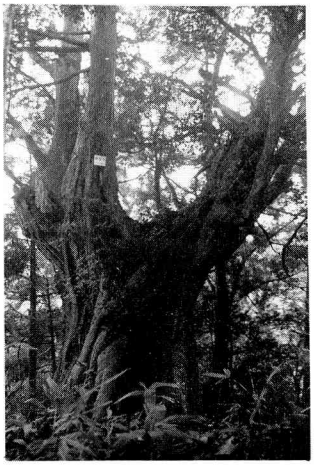


No. 10　スギ（ネジレスギ）11林班



No. 14　アスナロ28林班

No. 16　スギ（根曲杉）13林班



No. 17　ヒノキ（大檜）13林班